

仏教とお寺をやさしく解説

2008年12月
第1号
(年2回発行)

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

創刊号

発行部数3千部



「さんが」創刊にあたり／丹羽尊照住職インタビュー
シリーズ浄土宗／浄土宗のお寺を知る「西願寺」
実践教室／お仏壇とは
仏事相談／喪中のお正月の過ごし方

住職インタビュー

「楽しみは生きてること…」

「さんが」創刊にあたり、西願寺住職である丹羽尊照師にお話しを伺いました。



西願寺第三十一世 丹羽尊照（にわそんしょう）住職

問 はじめにご住職のお生まれを聞かせていただけますか？

住職 私は、もともと愛知の農家の生まれの子供なんですよ。小学三年生の時に得度して坊主になったんです。

問 お寺に生まれていなかったのに、なぜ得度しようと思われたのですか？

住職 実家の隣が寺でね、年中遊びにいつているうちに、その住職に「どうだい？やってみないか？」なんてことで…。その寺の住職は福井の方にも寺を持っていたので、小学校から中学まで福井の寺にいて、中学を出てから京都の仏教系の学校に行き最後は立命館大学まで出たのです。

その後、東京のある寺にいたのですが、そのうち埼玉の寺で養子を欲しがっていると云われ、それがこの西願寺だったんですよ。

問 西願寺の開山は元和元年（一六一五）ということですが長い歴史のあるお寺ですね。ご住職は何代目になるのでしょうか？

住職 私は三十一世になります。今は各寺院も世襲制になっているところが殆どですが、昔は私のように世襲制でお寺を継いでいないところも多かったんじゃないかな。

問 ところで、ご住職の今の一番の楽しみは何ですか？

住職 私？…生きてることかな？（笑）

問 それはすばらしいですね。先ほど、副住職さんに、「住職は、都はるみさんのコンサートなどに行ったりする」とお聞きしたのですが…。

住職 ああ。そうです。昨日も行ってきましたよ。地方のコンサートに日帰りで行くこともあるんです。ファンというのを通りこしてもう長い付き合いですよ。

コンサートは昔の教え子たちと行くのですけどね。

問 昔の教え子というのは？

住職 お寺の経営が大変だった時代、お寺の仕事しながら学校の先生をしていたのです。何校かの学校に勤めた後校長をして退職しましたので…。

問 では、教職時代の印象深かった思い出などありますか？

住職 最初に勤めた学校が、川口市（埼玉県）の安行中学校というところで、安行という場所は植物の産地として知られていてね、そこに行ったのがきっかけで今の植物好きになったんだけど、そこでは、クラブ活動でテニス部を作って三年後には大会に優勝するようになったんですよ。その後に移った学校ではソフトボール部をつくり優勝させ、その次の中学校ではサッカー部の監督をして全国大会で優勝させることができました。そういう活動に力を入れていたことが思い出深いですね。

問 ご住職はスポーツも好きでいらっしゃるんですね。手掛けたクラブがみんな大会で優秀な成績を収めているのは何か指導に秘訣があるのですか？

住職 どうかな。子どもたちと心が一つになることでしょうかね。そう感じるとやはり試合の成績も伸びていきま

す。

問 なるほど。それはスポーツだけに限らずどのような人間関係においても言えることかもしれませんね。

スポーツの他に植物が好きということですがどのようなことをなさるのですか？

住職 植物を育てるのが好きなんです。今は本堂の建て替えていろいろ片付けられてしまったけど温室を造って君子ランの花をいくつも咲かせたりなんていうのもしていました。

それから、ものを書くのも好きで新聞などに投稿し沢山取上げられましたね。他にも、外国の著名人、例えばノベル賞作家のパール・バックとか、



ジョン・ガンサーという方との文通も新聞に取上げてもらいました。でもそういう資料もみんな今回の建て替えて今はどこかにしまわれちゃって（笑）。

問 本当に多趣味でいらっしゃいますね。

住職 いろんな事に頭をつっこんでるだけですよ（笑）。

問 何にでも興味を持って好きなことを沢山もつのが「楽しみは生きていること」と言えるコツなかもしれませんね。

最後になりますが、「さんが」創刊にあたりこの冊子はどのような思いで発行されたのでしょうか？

住職 はい。皆さんには「宗教とは…」 「仏教とは…」と難しくお話しするのではなく、仏教を知るきっかけとしてこの冊子を通し、お寺や仏教をより身近に感じてもらえればと思いい発行を考えました。まずは気軽に手にとって読んでいただけると嬉しいですね。

問 そうですね。この「さんが」がお寺と皆さんをつなぐコミュニケーションの一つになることを期待しています。本日はありがとうございました。

浄土宗のお寺を知る

浄土宗 遊馬山一行院 西願寺

あすまさんいちぎよういん さいがんにじ

風情のある松並木の参道をもつ西願寺は、今から三九三年前の元和元年（一六一五）埼玉県のここ遊馬の地に本譽願故和尚によって創建されました。

第二代將軍・徳川秀忠が鷹狩りにも訪れたといわれる遊馬町は武蔵風土記稿によると、「徳川家康・駒伝馬の制を定めた一六〇一年頃より放牧され、約七〇年続く」との記述があり、幕府より馬の育成命を受け馬の放牧をし、良馬を幕府に献上していたという歴史があります。



六地藏尊（元禄13年建立）

西願寺は

正式には遊馬山一行院西願寺といい浄土宗のお寺で本山を徳川家康の菩提寺となる東京・芝の増上寺としています。

開創当時あったおよそ四万四千五百五十平方メートルと広大な寺域は、戦後の農地解放の折、本堂と庫裡以外の殆どを手放すことになりましたが、丹羽尊照住職と丹羽義純前住職（西願寺第三十世）の尽力により現在の寺域（あずま幼稚園含む）まで戻すことができました。

西願寺の本堂は、昭和九年に藁葺き屋根から瓦葺きに改装されましたが、昭和四十三年に幼稚園から出火した火事により、本堂、庫裡、その全てを焼失しその後コンクリート平屋の本堂が建てられました。（現在、本堂は建て替え工事中で平成二十一年十一月完成予定）

浄土宗はどういう宗派？

阿弥陀如来を本尊とする浄土宗は法然上人（一一三三―一二二二）が開かれました。

宗祖（開祖）法然上人は、阿弥陀仏の本願を信じて「南無阿弥陀仏」とその名を唱えればすべての人が救われると説かれました。そして、その教えは広く民衆の間に広がっていきました。

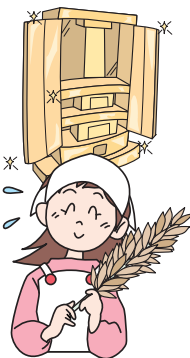
浄土宗の本山は？

浄土宗（鎮西派）には、総本山と七つの大本山からなります。（総本山を、京都の知恩院（京都府）とし大本山が、増上寺（東京都）、金戒光明寺（京都府）、百万遍知恩寺（京都府）、清浄華院（京都府）、善導寺（福岡県）、鎌倉光明寺（神奈川県）、別格本山の善光寺大本願（長野県）の七つです。

仏壇

年末には新しい年に向けてどの家庭でも大掃除に力が入るのではないでしようか？

家庭にある仏壇もすっきりときれいにお掃除を済ませ、清々しい気持ちで新年を迎えたいですね。



仏壇のはじまり

日本で一般の家庭にも仏壇を祀るようになったのは江戸時代からのことと言われています。その前には貴族や役人など一部の人だけが仏壇を祀っていたのです。

「日本書紀」によると天武天皇の四年（六八五）「諸国家毎に仏舎を作りすなわち仏像及び経を置き、以って礼拝供養せよ」という詔がだされたと書かれており、それが仏壇の歴史の始まりと考えられています。

仏壇とは？

仏壇はお寺の本堂を小型化したもので、仏様の世界を表しています。仏壇には必ず一段高い壇が設けてあります。これは、須弥壇といい仏様の住む理想の世界、「須弥仙」をかたどっているのです。

日本人の伝統的な宗教・習慣である先祖信仰から、仏壇はご先祖さまを祀る場所と考える方も多くいるかもしれませんが。しかし、仏壇は仏様を祀る場所。家での信仰の中心となるもので、それが仏壇の本来の意味です。

浄土宗の仏壇

浄土宗のご本尊は阿彌陀如来です。で、仏壇を祀る場合は須弥壇の中央に阿彌陀如来、その右に観音菩薩、左に勢至菩薩さらに右と左の各々に善導大師、宗祖法然上人を祀ります。位牌は次の壇に置きます。向かって右が上座となるため右に古いもの左に新しいものを置くようにします。

仏壇のお手入れ

ごみやほこりは毛ばたきで払い、漆塗りの箇所はやわらかい布でぬぐってください。

漆塗りの部分は水気に弱いので水拭



暮らしの中の 仏教語

「ぜんざい」

冬になると、甘いものが恋しくなりますよね。お正月の鏡餅を下げて食べる「鏡開き」で作るぜんざいも格別美味しいです。

さて、この「ぜんざい」漢字で書くと「善哉」となります。語源の由来には諸説ありますが、もとは仏教語と言われています。仏典に出てくる善哉の言葉は、「善哉、善哉」と二度繰り返して使われることが多く、漢字から読み取れるとおり「すばらしい」とか「実に良い」という意味で用いられます。

それがあの甘いぜんざいになったのは、一説によると一休禅師が初めて食べたぜんざいの美味しさに「善哉此汁」と言ったことからとか。

きはしません。やわらかい布やシリコンクロスでから拭きしましょう。
唐木仏壇の場合もシリコンクロスなどでから拭きする方がよいのですが、ロウソクや線香の煙による汚れは、かたく絞った雑巾でふき取り、その後から拭きするとよいでしょう。
金箔押し、金メッキ、その他金属製の仏具は、塩分や手の油分を嫌いますので直接手で触らずにやわらかい布などでかるくふき取るようにします。

仏事相談

喪中のお正月はどのように過ごせばいいのですか？
お正月の行事に参加してはいいのですか？

喪の期間を一年としたのは中国の儒学者がまとめた礼に関する書物「礼記」によるものです。親族が家族の死を悼んで遊びや笑いを慎み、酒肉を断って謹慎するのが本来の喪中の過ごし方。現在では葬儀が終われば普段と同じ生活をするようになりましたが、お正月のめでたさを祝うのは慎むのがよいとされています。ですから松飾りや鏡餅を供えることはしません。

しかし、めでたさを祝うことだけでなく、今年一年、心正しく過ごすことを誓うのがお正月ですから、寺院や神社のお正月の行事（修正会）に参加してもよいのです。



季節の雑学

お正月というと思浮かぶのはおせち、お年玉、お雑煮などなど…。

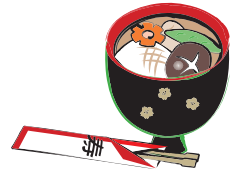
中でもお雑煮はその地方によって、家庭によって千差万別。

関東では、醤油ベースに焼いたお餅に鶏肉や三つ葉、ゆずなどが入っている家庭が多いのではないのでしょうか？

肉の入っていないお雑煮で精進料理ともいえるのが、京都のお雑煮。西京味噌仕立ての汁には、とろりとした丸餅と丸くきつたさといもや大根などが入ります。

材料を丸くきるのは、争い事がなく物事が丸く収まるようにとの意味からだそう…。

ま〜るく平和な一年にしたいですね。



西願寺 平成21年 年間行事案内

- ※1月1日(木) 修正会 (新年をむかえての法要=おつとめ)
- ※2月15日(日) 涅槃会 (お釈迦さまの命日)
- ◎3月17日(火) 春の彼岸会
- ※4月 8日(水) 灌仏会 (花まつり)
- ◎7月13日(月)~16日(木) お盆会 (東京棚経)
- ◎8月13日(木)~16日(日) 旧盆会 (地元棚経)
- ◎8月18日(火) 大施餓鬼会
- ◎9月20日(日)より26日(土) 秋の彼岸会
- ※11月23日(月) 十夜会 (念仏をとなえて善根をつむ法要=おつとめ)
- ※12月8日(火) 成道会 (お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(金) 仏名会 (念仏をとなえて一年を反省する法要=おつとめ)

◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。

※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要=おつとめです。



掲 示 板

平成21年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行う法要が年回（年忌）法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします。

1周忌	平成20年逝去	43回忌	昭和42年逝去
3回忌	平成19年逝去	47回忌	昭和38年逝去
7回忌	平成15年逝去	50回忌	昭和35年逝去
13回忌	平成9年逝去	100回忌	明治43年逝去
17回忌	平成5年逝去		
23回忌	昭和62年逝去		
27回忌	昭和58年逝去		
33回忌	昭和52年逝去		
37回忌	昭和48年逝去		



■霊園事務所定休日のお知らせ■

彩の都メモリアルパーク 管理事務所定休日 毎週水曜

平成21年1月より毎週水曜日は管理事務所の定休日とさせていただきます。事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承ください。尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。

年末年始休業日：

平成20年12月27日（土）～

平成21年1月5日（月）

— 個人情報保護に関する基本方針 —

当寺／霊園は、皆様からご提供いただいた個人情報の重要性を深く認識し、情報の保護の徹底を図るため、下記の方針を定めております。

- 1) 当寺／霊園は、個人情報に関する法令及他の関係法令を厳守します。
- 2) 当寺／霊園は、個人情報をご提供いただく際にその利用目的を確認し、当霊園の活動の範囲内で適法かつ公正な手段で取得します。皆様からいただいた情報は下記の場合のみ利用し、それ以外に利用することはありません。
 - ①当寺／霊園の宗教活動に使用し、これに関連して電話、郵便、電子メール、ファクシミリ等の手段によって連絡をとる目的。
 - ②当寺／霊園の宗教活動・公益事業・その他の事業に関する情報を提供する目的。
 - ③当寺／霊園の宗教活動を推進する目的。

宗教法人 西願寺
彩の都メモリアルパーク



■お便り募集■
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。紙面でご紹介させて頂きたいと思っております。また、「たんが」のご感想もお待ちしております。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「たんが」編集部

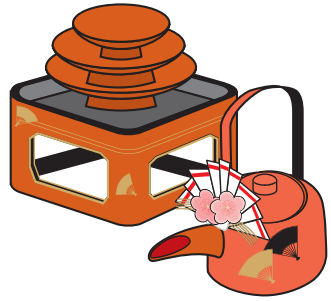
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F

FAX 03 (32695) 13692

Mail: info@io-co.net

■次号予告

次号は平成二十一年六月発行予定の「お盆号」です



◆編集後記◆

タイトルとなっているサンガという言葉、皆さんはご存知ですか？ 漢字で書くと「僧伽」となりそれを略しているのが「僧」なのです。もともとはサンスクリット語からきていて意味は、共和国や商業的な組合、会合、集団など集まりを表す言葉です。

僧や僧侶と聞くと私たちは一人のお坊さんをイメージしますが、侶という字も「連れ立つ仲間」という意味なので簡単に言うと呼仰をとにもする仲間といった感じでしょうか？

そしてこの広報誌の「さんが」というタイトルは、これが西願寺と彩の都メモリアルパークと皆さんのつながりになるようにという思いでつけられました。

さて、「さんが」創刊号はいかがでしたでしょうか？

仏教とお寺を「もっと身近に」そして「解りやすく」を編集のテーマに掲げ年2回の発行予定。生まれたての「さんが」ですが読者の皆さんと一緒に育てて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭副住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部